

## 開 議

○浅野敏明委員長 おはようございます。

これから決算特別委員会を開きます。

本日の会議に欠席の通告委員はございません。よって、ただいまの出席委員は定足数に達しております。

### 平成30年度長井市各会計決算に関する総括質疑

○浅野敏明委員長 それでは、昨日に引き続き、決算総括質疑を続行いたします。

#### 鈴木富美子委員の総括質疑

○浅野敏明委員長 順位4番、議席番号10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 おはようございます。

きょうは、秋晴れのすかっと爽やかな日となりました。私も爽やかに質問をさせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

それでは、通告書に従いまして、2つのことについてお聞きいたします。

初めに、病児保育事業についてお聞きしたいと思います。

本来ならば、病気になったお子さんはお母さんのもとで休むことができれば一番いいと思いますが、どうしても職場を休めない働くお母さんのためにできた病児保育施設みつばちルームが開所して2年になりました。2年がたち、皆

さんから必要とされている大切な施設であるのはもちろんですが、施設や経営等に問題はないかについて質問をさせていただきます。

みつばちルームで毎日、病気になったお子さんを預かっていただく保育士さん、看護師さんには、心より感謝申し上げたいと思います。

初めに、ことしの4月から8月末までの利用者の延べ人数はどれくらいだったのでしょうか、子育て推進課長にお聞きいたします。

○浅野敏明委員長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 まず初めに、病児保育事業、みつばちルームについて若干ご説明させていただきます。

病児保育事業は、保護者が就労等により子供が病気の際に自宅での保育が困難な場合に対応するため、病気の児童を一時的に保育するものです。安心して子育てができる環境を整備し、児童の福祉の向上を図ることを目的に、平成29年4月から本格的に開始いたしました。この事業は、平成27年3月に長井市子ども・子育て支援事業計画を策定する際に行いましたアンケート調査からも、病児保育施設に対するニーズが高かったことと、特にひとり親世帯の方が、子供が園や学校を休めば仕事を休まなければならない、それが低所得や貧困の一因になっているとも考えられることから、保護者の潜在的なニーズや、就労維持による低所得改善支援等にもつながるという観点からも実施しているものでございます。

鈴木富美子委員からのご質問である、ことし4月から8月までの延べ利用数でございますが、84名です。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 次にですが、1日のできる利用者の数は3人という決まりがあるわけですが、3人以上の申し込みがあった場合はどのような対応をしてるのでしょうか、子育て推進課長にお伺いいたします。

○浅野敏明委員長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 病児保育施設みつばちルームを利用する場合は、事前に利用登録をしていただく必要があります。事前に登録されている方が実際利用される場合には、施設に直接電話で予約をいただいております。受け付けは先着順ですので、定員の3名を超えていた場合はキャンセル待ちというようなことになっております。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 例えば定員超過によりまして、先着順ということでしたけども、お断りした場合、ほかの施設との連携をとってということはないのでしょうか、子育て推進課長にお伺いいたします。

○浅野敏明委員長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 お答えいたします。

各施設に事前登録が必要になってまいります。その受け入れの疾病や条件が異なる場合がございますので、連携等は現在では行っておりません。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 連携がとれないということはおわかりましたが、他の市町村で近くにある施設はわかりますでしょうか。わかる範囲で教えてください。

○浅野敏明委員長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 お答えいたします。

把握しておるのが、川西町のげんきルーム、こちらも定員が3名になってございます。米沢の塩井保育園にある、すまいるという、こちらも3人定員になってございます。あと、興道南部保育園りんごのへや、こちらも3名というように把握しているところです。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。

先ほど開所してから2年と申し上げましたが、その間の利用者の保護者に対する施設のことや

困り事などのアンケートや意見の聞き取りなどは、みつばちルームとしてはお聞きしてるのでしょうか。その点について、子育て推進課長にお聞きいたします。

○浅野敏明委員長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 お答えいたします。

病児保育施設利用者へのアンケートというのは特に行っていない状況です。施設を利用された方からは、ご意見やご要望等をいただいておりますというふうにお聞きしております。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 アンケートなどとはとっていないことですが、保護者からいろいろご意見をお聞きしていると今お聞きしましたが、どんなご意見が出ているのか教えていただきたいと思います。課長、お願いします。

○浅野敏明委員長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 お答えいたします。

頂戴している意見や要望等でございますが、施設を利用された方からは、インフルエンザにかかったお子さんを預かってほしいというご意見がありまして、それには他の病児保育施設の受け入れ状況をお聞きしながら、また長井市病児保育施設運営検討委員会で検討するなどして、昨年度から、インフルエンザの解熱後2日を経過をしている場合には受け入れということを開始いたしております。また、予約時間を早めてほしいというご意見を頂戴いたしましたので、これに対しまして、今年度から予約受け付け時間を15分早めて8時15分から行っております。そのことから、キャンセル待ちの方に対しましても早い対応に努めているところでございます。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 いろいろ対応されていて、ありがたいことだと思います。やはり核家族になったということで、おばあちゃんにも預けられないというお母さんたちが多く、ひとり親が多いということで、その辺はありがたい

など私は思っているところです。

平成30年度の成果報告書を見ますと、保護者のニーズに対応しながら安全・安心な病児保育を実施していくとありますが、みつばちルームがあることで働くお母さんにとって安心して仕事ができるこの施設は、今後ますます必要とされてくると思います。

今後、保育士の増員などで体制を整えた上で、保育時間の変更や定員の増員など、先ほどありました近くの施設の連携など等は考えられると思いますが、課長にこのことをお聞きしたいと思います。

○浅野敏明委員長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 お答えいたします。

まずは、お子さんの病気になった際には、保護者の方が家庭で保育できるという環境づくりというのが大変重要であるというふうには思っておりますが、核家族化や共働き世帯の増加、子育て環境が変化している現状では、いざというときのセーフティーネットとしての病児保育が引き続き必要であるというふうに認識しているところです。

また、病児保育施設の利用数も、平成29年度は延べ208名、平成30年度は271名。毎年延べ200名を超えるお子さんをお預かりし、鈴木富美子委員おっしゃるとおり、この施設のニーズが高いことをあらわしている数字であるというふうに感じているところです。毎年少しずつではありますが、この事業をよりよいものにするために改善に努めているところです。先ほどご質問いただきました他施設との連携という点につきましても、今後、チラシ等を置かせていただくなどは可能であるというふうに思っておりますので、検討してまいりたいと思います。

ただ、保育時間とかの変更や定員の増員などの運営に関する面につきましては、職員の増員、あと配置などの人事や費用面、定員増に対する施設の改修などに関係することでございますの

で、委託先の長井市福祉協議会とも協議をするとともに、利用者のご意見をお聞きしながら事業の推進に努めてまいりたいと思っております。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ぜひ前向きに検討していただきまして、やはりニーズに応えることが大切かなと思いますので、よろしくお伺いいたします。

病児保育施設については以上でございます。ありがとうございます。

続きまして、観光地域づくりプラットフォーム支援事業及び補助事業についてお伺いいたします。

平成28年から平成30年にかけて、やまがた長井観光局が開業しましたが、ことしの4月からは2市2町で構成する、やまがたアルカディア観光局となりました。平成30年度の観光局を通して長井にお越しいただいたお客様は、1万3,634人とお聞きしました。道の駅川のみなと長井では、まる得クーポンの発行、大型バスへの補助など、さまざまな工夫により交流人口の増加に頑張ってもらったと思いますが、滞在型交流観光による観光客の人数を商工観光課長にお伺いしたいと思います。

○浅野敏明委員長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 地域づくりプラットフォーム支援事業につきましては、委員からご質問あったとおり、やまがた長井観光局が3年間稼働してきましたけども、その立ち上げ、基礎固めのため、地方創生交付金を活用して実施してきた事業というふうになっております。このほか、やまがた長井観光局では、誘客強化事業補助金、それからその他の交付金などを使いまして、長井市の観光交流人口の増加を図るべく取り組んできたところでございます。

ご質問ありました、平成30年度のやまがた長井観光局が実施した企画で直接長井市に誘致したお客様の人数、1万3,634人につきましてはで

すが、このほかに観光局では、情報の一元化ということで観光ポータルサイトのほうをまとめて運営してまいりました。こちらのほうにお問い合わせあったお客様への対応などもしております、この数字にはカウントされていないんですけども、まちなかをごらんいただきますと歩いている観光客が目につくようになったというふうなこともありますし、ボランティアガイドの案内ニーズもふえてきているということで、実績を上げてきたなというふうに感じているところです。

さて、ご質問の滞在型交流観光については、これは企画商品になりますが、滞在交流型旅行商品というふうに呼んでおります。やまがた長井観光局が市内を中心に企画をして作成しましたオリジナルの募集型の旅行商品ということになります。こちらは30年度は32種類企画いたしまして、38回の催行を行っております。参加されたお客様は、合計259名というふうなことであります。

この企画旅行のほかには、先ほど申し上げました地方創生交付金の事業や、そのほかのいわゆるバス補助なども行っておりますので、旅行会社に対しましては観光局の企画を売り込みましてタイアップ型の旅行企画、こちらは団体旅行になりますけども、そういったものも146回行っております、合計5,972名にお越しいただいております。

あとは数字にはあらわれておりませんが、市内でイベントなどがあつた際には、受注型あるいは手配型と言われている旅行ということで、観光局を通して長井市内に来ていただいたお客様がいるというふうなことであります。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。

最近、まちなかを見ても、案内の方が連れてずっとご案内しながらいるのはよく見かけま

す。また、フラワー長井線からおりてくるお客様もおられますので観光客はふえてるんだなどは思いますが、滞在型交流観光でやっぱり人口をもっとふやすようにしたら、もっと長井にお金が落ちるんじゃないかなと私は思うんですが、それを目指すとしたら、民宿をふやしてはどうかなと思います。近隣では飯豊町の中津川地区に農家民宿がありますが、長井市も必要に思うんですが、商工観光課長はどのように思われますか。

○浅野敏明委員長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 昨年まで、やまがた長井観光局が行ってきました体験や滞在型の旅行企画につきましては、ほとんどがホテルとか大きな旅館を対象とした企画になっておりました。ただ、観光局が行う旅行企画に参加されるお客様につきましては、やはり個人や少人数のグループでの参加が多いというふうなことで、そして参加者の嗜好といいますか、ですけども、田舎を楽しみたいというふうな方も結構多くいらっしゃるというふうなことから、委員がおっしゃるとおり、民宿などがあつたほうがありがたいなというふうに感じているところであります。

ただ、長井市ではこれまで民宿が2軒ございまして、体験型の旅行企画でもお世話になってきたところですけども、残念ながら、現在この2軒とも都合によりまして営業してないというふうな状況になっております。これから長井市としては滞在・交流型の旅行を推進するに当たりまして、やはり旅館やホテルだけではなくて、民宿や、あるいはペンションなど、本来であればあつたほうが大変よいなというふうに思っているところでございます。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。

民宿があつたのが今なくなったということで、残念だと思いますが、やはり民宿というのはハ

ハードルが高いのかなと、ちょっと私的には思っております。課長がおっしゃるように、地域資源の食を生かしたり、山菜ツアーだったり芋煮ツアーを体験してもらうには、やっぱり滞在していただかないと、しっかりしたおもてなしができないのかなと思います。民宿のハードルが高いのであれば、民泊などを募集することはできないのでしょうか、お聞きいたします。

○浅野敏明委員長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 民泊につきましてですが、全く取り組んでないというわけではなくて、今、置賜地域全体で首都圏からの教育旅行というものを受け入れております。この教育旅行ですが、それぞれ置賜の各市町が分担いたしまして今受け入れしているというふうな状況でございます。ただ、これにつきましては農業体験が主でありまして、受け入れにつきましては農家が主体となっております。昨年あたりの長井市での状況は、7軒の農家にご協力をいただいております。

滞在型旅行、体験旅行というものをやっぱり進めるに当たりまして、民泊というふうなことも非常によい方法だなというふうに思っておりますので、こういった今まで中学生を受け入れていただきました農家の皆さんを中心に、一般の方も受け入れできるかどうか、今後相談してまいりたいところであります。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ぜひ進めていただいて、もしかして引き受けてくださる市民の方がいらっしゃると思うので、どういったことで民泊ができるのかという施設の問題とか衛生面等もあると思いますので、ぜひその辺を募集するなり、何かコマーシャルしていただいて募集していただければ、山菜ツアーとかも組めるのではないかと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

次に、インバウンド対応のために外国語対応

を進めたとありましたが、どのような内容だったのか、課長にお伺ひいたします。

○浅野敏明委員長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 昨年の主要な施策の成果報告書のほうに記載してる部分だと思いますけども、外国語対応につきましては、昨年以前から、例えば長井市の総合パンフレットというものをご以前出しておりましたけども、こちらは4カ国語対応のものを制作しておりました。また、さくらまつりの会場の立て看板などには、これも大分前から4カ国語表示というふうなことで対応してきた経過がございます。

成果報告書に記載している30年度の実績につきましてですが、こちらは「るるぶ」地域特別版というものを観光局のほうでつくっております。これにつきまして、英語版のものを昨年度発行させていただいたものでございます。

また、観光ポータルサイトにも、外国語表示については当初から3カ国語対応で表示しておりましたけども、外国人の目から見て、なかなか内容がわかりづらかったりというふうなこともありましたので、市内に在住していらっしゃるALTなどの外国人にお聞きいたしまして、サイト内の掲載内容を、より外国人観光客にわかりやすく、必要な情報を掲載するように改善したものを実績として上げさせていただいたものでございます。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 外国の方はあんまり市内ではお見かけはしてないんですが、やはりこれからふえてくるようなことを仕掛けていくのは大切なことだと思いますので、まだまだ必要なことが多いのかなと私は思います。

今、携帯というか、スマホでも外人の方も全部調べられることが多いので、ぜひ、携帯のナビなどにも長井のコマーシャルも入れるようなのがあればいいかなと思います。その辺はどうでしょうか。

○浅野敏明委員長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 まず、スマホの対応につきましても、実は観光ポータルサイトの中に、まち歩きナビというふうなメニューがございます。そちらをクリックしていただきますと、ユッツバーグさんという架空の外国人が出てまいりまして、その方が英語での案内をするというふうなサイトをつくっております。今まではそちらで対応してきておりましたけども、今年度、令和になってからの事業といたしましては、各観光案内所に外国語対応のタブレットを設置させていただきますまして、直接、総合案内所のところで外国人とやりとりできるような仕組みをつくってるところでございます。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。

逆に私たちのほうが、まち歩きナビなどを調べて長井を知るのが必要かなと、ちょっと今思ったところでした。

平成30年度の外国人の観光客についてですが、どの時期に多くいらっしゃったのかも聞きしたいと思います。

○浅野敏明委員長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 昨年度の外国人旅行者の数につきまして、やまがた長井観光局で把握できてるものについて、まずお答え申し上げます。

主に置賜さくら回廊に、バスと山形鉄道を利用したツアーのお客様でございますが、台湾から8回、235名、シンガポールから6回、189名、このほかエージェント対象ではございましたけども、体験ツアーとして1回、26名という人数がございます。合計いたしまして、さくらだけで450名お越しいただいております。そのほか長井市内でけん玉のイベントとか、それから絵を描くアーティストの集まりなどもありまして、そちらのほうにも数名ずつ参加いただいておりますので、さくら以外のところで把握してるのは10数名というふうな状況でございます。

あと、そのほか山形鉄道の集計がございまして、こちらについてお伺いしたところ、主に台湾の旅行会社が組んだツアーでございますが、4月に502名、7月に30名、10月に18名、2月に20名の、合計で570名ご利用いただいたというふうなことでございます。山形鉄道の集計のほうには、4月の部分ですが、観光局の集計とちょっと重なってる部分もございますけども、そこを勘案しますと、平成30年度の1年間で約800名ほど長井市に訪れていただいたのではないかとこのように考えてるところでございます。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。

知らないときにいっぱいいらっしゃってるんだなということがわかりました。

飯豊町のどんでん平ゆり園で、冬、台湾から大分、スノーモービルの体験にいらっしゃってるわけですが、そこは何かタイアップできるようなことは考えられるでしょうか、お聞きいたします。

○浅野敏明委員長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 過去に飯豊町だけでちょっと宿泊できなくて、長井まで来て宿泊していただいたという経過はございます。ただ、現在、やまがたアルカディア観光局になりましたので、その飯豊町が今まで10年間培ってきた台湾人の冬の体験の旅行につきましては、これから長井市のほうの資源も使いながら、一緒に誘客していきたいなというふうに考えているところです。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ぜひ、隣の町ですので、力を入れていただきたいと思います。やっぱり冬に訪れる、私たちは雪が多くてちょっと嫌なイメージがありますが、冬の体験なされてない方は本当すばらしい景色だと思います。

ますので、ぜひ力を入れていていただきたい  
と思います。

次にですが、大型観光バスツアーはもちろん  
大事ですけども、少人数を対象として、日本の  
文化、例えば書道、華道、茶道など、外国の方  
に興味深い日本の伝統や食などをメインとした  
観光の企画も取り入れていくべきと思いますが、  
商工観光課長のお考えをお聞きいたします。

○浅野敏明委員長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 日本文化に触れる、体  
験する、あるいは味わうというような旅行につ  
きましては、特に欧米の方が人気のようにござ  
います。今後インバウンドを進めていくに当た  
りましては、ぜひ長井市内でもそういった日本  
の文化や伝統などを味わえるようなものを企画  
できるようにしていきたいなというふうに思っ  
ております。

ただ、そういうものを行うに当たりましては、  
体験をできるところをつくらなければならない  
ということが一つ、それから、それを体験させ  
る人ですね、人をやっぱり発掘していかなけれ  
ばならないというふうなこともありますので、  
受け入れにつきましてはその辺も相談しながら、  
観光局を中心に将来に向けて計画していきたい  
なというふうに思っている部分です。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 いろいろな観光が考  
えられますので、やはりオール長井でいくべき  
だと思いますので、ぜひ皆さんの知恵をおかり  
してやっていただければと思います。

次にですが、長井ダム観光についてお伺い  
いたします。

水陸両用バス、今度、秋からは遊覧船と、あ  
とボートへの乗船が始まっていますが、地域づく  
り推進課で進めております。それで、乗船時の  
観光案内につきましては黒獅子の里案内人の方  
が頑張っておられますが、乗船する場所や、行  
くまでの道案内など、まだまだ工夫する必要が

あると思います。それについて、商工観光課長  
にお伺いいたします。

○浅野敏明委員長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 特に水陸両用バスの遊  
覧についてだと思いますけども、長井ダム及び  
百秋湖の資源を活用して地域資源の活性化を図  
るため、地域づくり推進課で河川占用や運行許  
可の諸手続を行いまして、施設の使用についま  
してはダム管理支所からの協力を得て、現在、  
試験運行という形で行っているところでござい  
ます。この試験運行の中の試験に含まれる部分  
で、観光局におきまして予約受け付け、チケッ  
トの販売、アンケート調査というふうなことも  
今年度試験的に行わせていただいている部分で  
ございます。

より多くの方々に乗船していただきたいとい  
うようなことで、1日4便でことしあたりは計  
画していただいておりますけども、その都合も  
ありまして、どうしても道の駅からダム、途中  
何も見ないで真っすぐ行って真っすぐ帰って  
くるというふうな状況になっていると思います。  
この水陸両用バスの試験運行につきましては、  
長井市の玄関口というふうなことで、道の駅か  
らの発着というふうなことにしております。乗  
船の場所や途中の観光経路にもっと工夫が必要  
ではないかというふうなご意見でしたので、来  
年から観光局で企画、運営していく方向で今検  
討しているところでございます。その際には、便  
数の関係もあるんですが、市内のルートも検討  
し、また、長井のよさを知っていただく場所な  
ども案内できるようなことで工夫していきたい  
なというふうに思っております。

また、遊覧船につきましては、こちらは乗船  
場所が固定されますので、乗船場所までの長井  
の観光名所をご案内できるような、例えばバス  
を出して、例えばの話ですが、乗船場所まで  
の送迎なども工夫が必要なのかなというふう  
に考えております。

運行のルートだけでなく、もちろん案内するガイドがないとそのツアーの中身が充実しませんので、ボランティアガイドの皆さんからご意見をいただきながら、観光局ともよく相談して来年度以降の運行につなげていきたいなと思ってるところでございます。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。

大分、水陸両用バスにつきましては、市内より市外、県外の方々が多かったような気がいたします。私も乗せていただきましたが、受付に行ったらほとんどの方が知らない人ばかりで、車のナンバー見ますと遠いところで東京のほうの方もいらしたりして、すばらしいことをしてるんだなということがわかりましたので。それで、まなび館で待ってるときに何もなくて、お互いに待ってるだけの時間が、あれはもったいないなとちょっと思ったところでした。それにつきましても、その後、せっかくのバスなので、ぜひダムから三階滝のほうまで回っていただければ、それもいいコースになるのかなとちょっと思ったところでしたので、ぜひいろいろ検討していただきたいと思います。

今に関連してですが、今話したように、まなび館についてですけども、やはり受付があそこ、まなび館だったので、待ってる時間に、せっかくいらしたお客様にもっと長井をPRできないのかなという、ちょっと思ったところでした。来年からルートを考えるということでしたので、まなび館に受付になるかどうかわかりませんが、まなび館の活用ももっと必要だと私はちょっと思ったところでした。

まだまだPRできる場所であるし、もしできれば土日など地元の皆さんからお手伝いいただき農産物の販売など、外でもいいのでできたらいいなと思いますが、課長にその件についてお聞きいたします。

○浅野敏明委員長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 まず、受付というふうなお話ありましたけども、まなび館で受け付けをしているのはゴムボートのほうの三淵遊覧のほうだけでございます。ただ、水陸両用バスにつきましても、これから行う遊覧船につきましても、まなび館を経由するというふうなことはございますので、その点、やっぱりまなび館については考えていきたいと思っております。

まなび館につきましては、立地してる場所がやはりダム、それから山岳方面に向かうちょうど入り口の位置というふうなことでして、いい場所にあるなというふうなことは認識しております。それで現在は、まなび館はNPOに委託して運営していただいております。ただ委託してるだけでなく、長井ダム水源地域ビジョン推進会議を通して、さまざまな市内の団体、それから個人、国も県も入っておりますけども、かかわっていただきまして、いろいろなアイデアを出しながら運営していただいているところです。

これまでちょっとできなかった部分につきましては、施設が国の所有物でありまして、お借りしているというふうな条件もございまして、なかなか思いどおりにできない部分もございました。そのような中でも、NPOのほうで工夫いたしまして、ながい水カードの発行とか、それから野川の自然展、これ写真展ですけども、その開催とか、また、ながい百秋湖まつりを実施していただいておりますので、そのメイン会場として盛り上げていただいております。その百秋湖まつり際には、近くの農家の方にお手伝いいただきまして農産物の販売も外で、建物の外になりますけども、していただいているというふうな状況でございます。

今後、そういったことをイベントのときだけでなく常にできるかどうか、まなび館のスタッフの人的な問題もありますけども、ぜひ活用

できるように前向きに相談していきいたいというふうに思っているところがございます。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。

ぜひ、やっぱりせっかくできてる建物であり資源でありますので、活用していただければいいと私は思っております。

まなび館の西側の広場も、芋煮とか今度やられるという予算ついてますが、その点は、ちょっとずれますが、そこについてはどのように計画なさってるのかちょっとお聞きいたします。

○浅野敏明委員長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 ご質問いただいた分は今年度の予算の部分でございますけども、まなび館の西側、野川の上流側の、ヤードと呼んでますが、現在何も使ってないというようなことで、雑草が生い茂ってるというふうな状況でございます。そこを、もっとまなび館の施設も利用する人がふえるようにというふうなことも狙いの一つとして、このたびの予算には、一部整備をさせていただいて、芋煮やらバーベキューやらできる広場をつくらうというふうに計画してるものでございます。こちらについては、まなび館の運営の部分にもかかわってくることでございますので、一方的にちょっと進めるわけにはいかないところもあります。今後とも相談しながら、活用できるように進めていきたいなと思っております。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 ぜひ、秋のすばらしいときに芋煮あそこでできたらいいなと思いますので、その点も時間をかけながら、納得しながらやっていただければと思います。よろしくをお願いします。

最後の質問になります。旅行商品の企画開発には、いろいろな知恵を出し合って計画なさってると思います。新商品の開発においては、市

外から長井市に定住移住なされた方や、主婦であったりおばさんチームであったり、各年代層の考えも引き出すことも必要かと思えます。もっと地元の方も身近に参加できる、すてきな商品開発もできると思えますが、商工観光課長はどのように思われますでしょうか。

きょう、うちの主人が観光局で企画なされました三十三観音ツアーに行っております。これはすばらしいなと思って私も行きたかったんですが、この場になくちやいけなくて行けませんでしたので、こういう身近な企画も、やはり外からの交流人口も大切ですが、もっと長井、地元の方にも旅行を頑張ってることをPRするにも必要と思えますが、いかがでしょうか。

○浅野敏明委員長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 本日の三十三観音めぐりのほうにご参加いただきまして、ありがとうございます。ことし、置賜三十三観音はご開帳の年というふうなことで、春からずっとこのツアーを組んでおります。大変人気がございます。好調でございます。

今、委員からご質問ありました、旅行商品づくりのほうにさまざまなアイデア、参加者がいたほうがいいのではないかとというふうなことでございます。

旅行商品の企画につきましては、やはり商品数につきましては、多ければ多いほどいいというふうなことでもないんですが、さまざまなアイデアを出していかなければならないと思っております。DMOの組織の役割といたしまして、誘客だけではなくて、その地域内の各素材をつないで、お客様に来ていただけるような魅力、地域の基礎をつくることということも担っております。これは、いわゆる観光地域づくりというふうに呼んでいるものでございます。

具体的に言いますと、例えばある料理屋のお店があって、非常に評判のいい料理があったというふうなお店があったとします。ただ、その

お店は、そのものをただ自分の家の利益のために頑張ってるだけという状況です。また、別の農家では、生産している農作物を出荷している農家があって、その作物は非常に売れているというような農家があったとします。単純に言うと、例えばこの2つを組み合わせますと、収穫体験、それから例えば調理体験、そして食事の提供というふうな一連の体験企画というものができ上がります。こうした地域内の横のつながりが整えることができますと、今までお客様が来なかったその地域に来ていただけるというふうなものができるということになります。この積み上げが、お客様に来ていただける地域の下地になるというふうに考えております。

このような取り組みをすることで、DMOという地域の仕組みが、お客様に来ていただける観光地域づくりというふうにつながっていくものというふうに考えております。DMOは、会員同士の横のつながりというものが新たなその地域の魅力づくりに貢献していくこととなりますので、会員が多ければ多いほど、いろいろなその組み合わせも出てきてアイデアも出てくるものというふうに思っております。

ご提案いただきましたように、例えばお母さん方にも参加していただいているわけですので、地元の方々に、自分は何ができるか、そして何を味わってもらいたいのか、何を体験してもらいたいのかというようなことをアイデアを出していただきまして、それを旅行企画のほうに反映していただきたいというふうに思っております。

こういった取り組みは、現在、観光局ではどのように行ってるかといいますと、まず基本的には、大きく戦略会議というふうなものを設けております。ことしから2市2町の地域連携のDMOになりましたので、各町の、今一生懸命事業をしている方、あるいはまちづくりに励んでいる方、観光に携わっている方などの精鋭の方々に集まっていただいて、地域として戦略を

立てていただいております。その戦略会議のほかにも、図でいうと下になりますけれども、専門部会というものもつくっております。そこでは旅行企画の検討を行うというふうな部分もございます。その部分で皆さんにいろいろな意見やアイデアを出していただきまして旅行企画をつくっていくようにできますので、まず会員になっていただくというのが一番いいことではございますが、そのように進めてまいりたいと思っております。

それから、まだまだそういった自分たちが参加できるんだというふうなことが周知徹底されていない部分があります。観光局でもインナープロモーションとして、ことし春に置賜全域に通信紙を出しましたけれども、それだけでは理解が深まらないというふうに考えております。今後考えられることは、例えば旅行商品のアイデアを置賜地域に公募するというふうな取り組みとか、このアルカディア地域のいいところの写真コンクールを開くとか、そういった取り組みがインナープロモーションにつながって、インナープロモーションが広まっていけば、地域内のインナーブランディング、地域のブランディングにつながっていくというふうに考えておりますので、そういった取り組みをこの観光局とともに進めてまいりたいというふうに思っているところです。以上になります。

○浅野敏明委員長 10番、鈴木富美子委員。

○10番 鈴木富美子委員 課長のおっしゃるとおり、まだまだ長井にはいっぱい資源がありますし、いろんなアイデアを持ってる方がいっぱいいると思います。やはり一生懸命、市でも観光に力を入れているので、ぜひいろんな知恵を出し合いまして、観光にもっともっと、身近な観光も必要かなと私は思います。やはり、さっきも言いましたが、外の方にはもちろん魅力を発信します。しかしながら、やはり、この間、おらんだ検定などを企画されるわけですが、そ

ういったことから、地元の方にもっと観光について詳しく知ってもらって企画に入ってもらうということも必要かと思ひます。ぜひ、いろんな知恵でこの長井の観光を盛り上げていていただきたいと思ひます。

私からは以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○浅野敏明委員長 以上で通告による総括質疑は終わりました。

これから細部審査に入ります。

なお、質疑に当たっては、答弁者並びにページ数をお示しの上、お願いいたします。

### 認第1号 平成30年度長井市歳入歳出決算認定についての質疑

○浅野敏明委員長 それでは、認第1号 平成30年度長井市歳入歳出決算認定についての一般会計の歳入から順次質疑を行います。

まず、認第1号の一般会計の歳入全部について質疑を行います。事項別明細書の51ページから88ページまでであります。ご質疑ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○浅野敏明委員長 質疑もないので、質疑を終結いたします。

次に、認第1号の一般会計の歳出について質疑を行います。

まず、1款議会費、2款総務費について質疑を行います。89ページから133ページまでであります。ご質疑ございませんか。

6番、金子豊美委員。

○6番 金子豊美委員 ページ数127ページ、選挙費、選挙管理委員会費の002選挙管理委員会運営費についてお伺いします。事務局長にお伺いしたいと思います。

昨年度ですが、11月に市長選挙ありまして、その後、今年度に入ってから統一地方選挙あったわけですが、投票率の低下がいろいろ取り沙汰されているところであります。今回の決算の中で、そういった投票を呼びかける費用的な面でどのような部分に主に投資をしてきたかというのをお聞きしたいと思ひます。例えばですが、明るい選挙推進協議会のほうでさまざまな活動をしてきたとか、そういった例があると思ひますが、どの辺に力を入れて活動したかお聞きしたいと思ひます。

○浅野敏明委員長 梅津浩一選挙管理委員会事務局長。

○梅津浩一選挙管理委員会事務局長 お答えいたします。

支出の中ですと、128ページをごらんいただきたいと思ひます。備考欄の中に、明るい選挙推進協議会啓発活動交付金5万円というのがございます。ここで明るい選挙推進協議会のほうに交付いたしまして、その中で全て広報活動をしていただいております。主なものは、選挙の告示日とか、投開票日の前日に広報車で回ったり、あと年間を通してポスターの作成を小中学校あたりに依頼して、それを集めて明推協あたりで審査したものを県に上げて、そこでいいものを表彰するというようなことを行っております。

○浅野敏明委員長 6番、金子豊美委員。

○6番 金子豊美委員 そういった努力を常日ごろ欠かさずやっとなるわけなんです、この明推協の5万円という経費の中で十分間に合うような活動だけ行ってるということによろしいですか。

○浅野敏明委員長 梅津浩一選挙管理委員会事務局長。

○梅津浩一選挙管理委員会事務局長 そのようにしております。

○浅野敏明委員長 6番、金子豊美委員。